



## 閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声 松尾芭蕉

あまりにも有名な俳句なので、説明はいらないですよ。

今年は、臨時休校期間があった関係で、子どもたちにとっては短い夏休みになりました。子どもたちは残念に思っていることでしょうが、親としては、学校に行ってくれるということでほっとしておられる家庭もあるのでしょうか。

子どもたちには、暑さに負けず登校し、コロナに負けず、熱中症にも罹らないよう、元気に活動して欲しいものです。また、夏休みがまったくなくなったわけではなく10日間あります。この10日を有意義に使って、夏を十分満喫し、たくましく育てて欲しいものですね。



### 今、子どもと一緒に考えてみたいこと

今は、新型コロナのお陰(?)で、多くの方が不自由で、不便な思いをもって生活をしておられることでしょうか。これは大人だけでなく、子どもも同様です。子どものほうがもっと不自由さを感じているのかもしれない。

そのようなコロナ禍の中で、「これまでのこと、そしてこれからのこと」を親子で一緒に考えてみてはいかがでしょうか。これまでの生活に比べ、不自由になったことについて考えることで、今まで普通にあったことがいかに大切なことであったかについて気づかされることでしょうか。

今まで学校では、授業中、みんなで机を合わせて考え、教え合いました。給食は、グループで楽しく食べることができました。休み時間には、自由に友達と寄り集まって話をしたり、遊んだりすることができました。学校外の生活では、行きたいところがあれば自由に移動でき、買いたいものがあたら何でも買えました。コロナ発生前は、そのようなことが「当たり前」にできていたのです。コロナ発生後は、これまで当たり前にしたことができなくなり、日常生活について、改めて考えなくてはならなくなったのです。

コロナ禍でも、医療福祉や電気、水道、ガスなどのライフライン関係で働いている人、警察や消防、交通機関で働いている人、そして食料品を生産する人、運搬する人等様々な分野の人のお陰で生活ができました。不自由を感じながらも私たちの為に責任をもって仕事をしてくれた人のことを考えてみたいものです。そうすれば、自然と感謝の気持ちが湧いてくるのではないのでしょうか。

人は一人では生きていけません。いろいろな人とのつながりの中で生きているのです。子どもたちには、このことに気づいて欲しいものです。そのことにより、生活の仕方が変わってくるでしょう。

親と子どもと一緒に、これからの生活をどうしたらいいのか、どのような心持ちで接したらいいのかを考えてみましょう。

これから、2波、3波が来るかもしれません。これから先、コロナは完全になくなることはないでしょう。コロナとの共存を考え、これからの、コロナの時代を賢く、そして、しなやかに生きていく力を子どもたちにはもって欲しいものです。

(文責＝青少年育成センター指導員 藤村)